

- 内部の記法の変更

- IMI語彙記法によるデータモデル定義の統一

- データモデル定義をIMI語彙記法に統一することで、人間が理解しやすい形で設計記述を可能とし、設計者・利用者ともに機械言語定義を機械変換により入手可能とする。
(DMD2.1では、利用者の利便性を考慮してデータモデル定義にXML, RDF, JSONなど複数の機械言語定義を手作業等で準備する必要があった。)

- 「マッピングファイル」を新たに定義

- 「構造化項目名」を用いてデータ項目と語彙とを紐付ける「マッピングファイル」により、機械可読性と人間の理解しやすさを両立。

2018年3月公開

■ DMD (Data Model Description / Descriptor)

データ交換を行う当事者間で共有するデータモデルの記述方式

参照するスキーマや項目の値の制限、項目の内容を説明したドキュメントなど、データ項目を共有するために必要な情報をひとまとめにしたパッケージ。

- 機械向けの情報と人間向けの情報の双方を持つ

■ DMD3.0の構造

IMI語彙記法によるデータモデル定義の統一

DMD2.0,2.1では、データモデル定義にXML, RDFなど複数の機械言語による定義が必要であった。

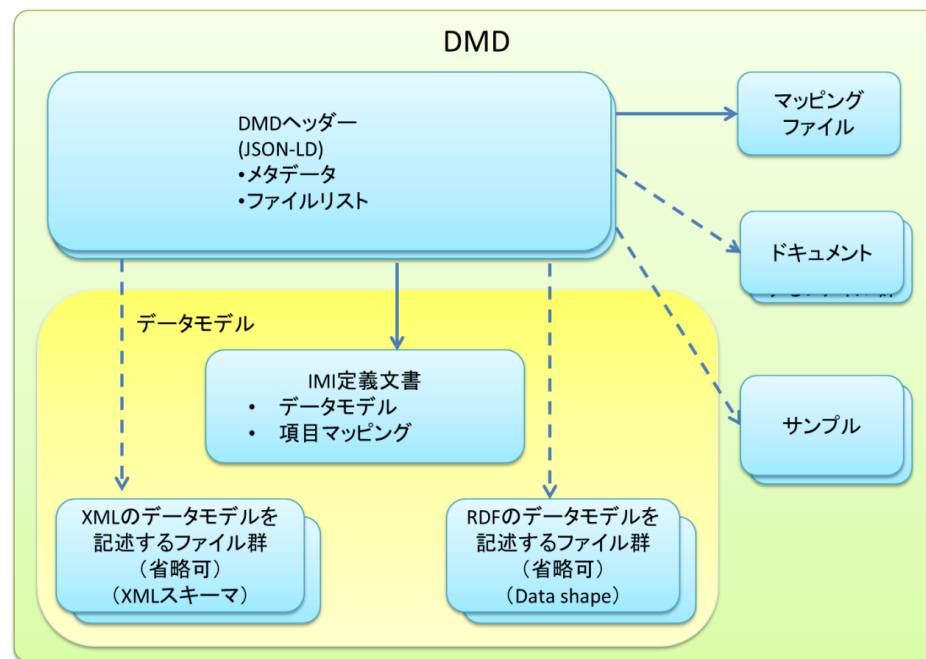
DMD3.0ではデータモデル定義をIMI語彙記法に統一し、人間が理解しやすい形で記述を可能とした。(XML,RDFは省略可)

マッピングを記述する技術仕様も併せて策定

DMD3.0の利便性を向上するために、データ項目と語彙のマッピング情報をDMDの中に定義することが望ましい。

このマッピング情報を記述するための仕様を併せて策定した。

- 構造化項目名記法
- マッピングファイル仕様

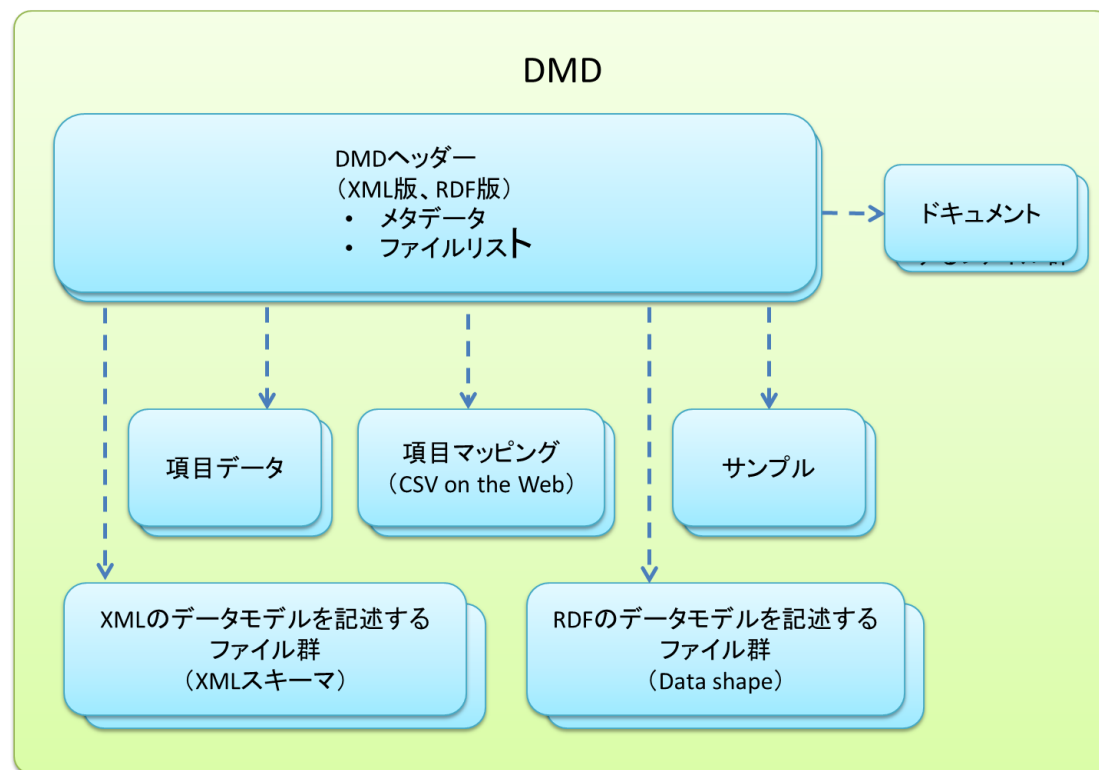


DMD3.0の構造

■DMD2.1の構造

DMDはzip形式のファイルであり、下記のファイルが含まれる。

- DMDヘッダー(XML版及びRDF版)【必須】
- XMLのデータモデルを記述するファイル群
 - XML用語再定義スキーマ【再定義をする場合は必須】
 - XMLデータスキーマ【必須】
- RDFのデータモデルを記述するファイル群
 - RDFデータモデル記述【必須】
- 項目データ
- ドキュメント
- サンプル
- 項目マッピング【必須】



DMD2.1の構造